



喜多の埜

歯神社例祭のご案内

来月、六月四日は当神社の飛地（とびち）末社である歯神社の例祭日です。この歯神社は小さな祠（ほこら）のお社で、繁華街の中心、角田町において唯一戦前から残る建物として、梅田の地に今も御鎮座されておられます。

御由緒は江戸時代に、淀川の氾濫があつた時に遡り、この歯神社の御神体である巨石がその洪水の流れを歯止めし、水没から梅田の街を守つた事から歯止めの神様として慕われた事に由来します。後世、音韻が通じるのを以つて「歯痛止めの神様」とも慕われ、更に時代が下がるにつれ、歯のご利益あらたかなるを遠近に知られるようになり、また大阪が歯ブラシ生産量日本一の地という事もあり、現在では「歯の大神さま」として、全国の歯に関わる方々から崇敬されています。

当日は午前十一時より歯神社前にて神事があり、氏子崇敬者をはじめ参列者皆様の歯の健康と、歯ブラシへの感謝の心を御祈願いたします。終了後（十一時二十分頃）に歯ブラシの授与がございます。尚、歯ブラシの授与数は先着百名さま迄とさせて頂いております。皆様のお参りをお待ち申し上げます。

名称 歯神社例祭（通称 歯ブラシ感謝祭）
日時 平成廿四年六月四日（月）午前十一時
場所 大阪市北区角田町二番八号 歯神社

（ユニクロ梅田店 入口横）
備考 歯ブラシ授与は先着百名迄。
お問い合わせ 網敷天神社 御旅社まで

主権回復六十年

昭和二十七年（一九五二）四月二十八日にサンフランシスコ平和条約が発効され、日本が主権を回復してから、先月二十八日で、ちょうど六十年となりました。実は国際的にはこの平和条約発効までは「戦争状態」として扱われている為、戦争が本当の意味で終結してからも六十年という年になります。日本で六十年といえば数えて還暦にあたり、いま一度、「日本とは何か」を見つめ直す時期に入っているのかもしれない。

金環日食

報道などでもよく取り上げられています。今月二十一日午前七時二十八分頃に、この大阪でも二八二年ぶりに金環日食が観測されます。非常に珍しい天体現象ですので期待も大きなものです。日本での金環日食の初見は、『源平盛衰記』の寿永二年（一一八三）閏十月一日の水島の合戦の条で、合戦の最中に太陽が欠け始めたので、源氏の木曾義仲軍部将、足利義清らの軍勢は大いに動揺したが、平重盛らの率いる平氏は陰陽寮からの報告で事前に知っており、動揺を突いて勝利したとあります。八二九年前の日本では既に高度な天文学があつた事が分かります。

喜多埜稻荷神社参道改修

神山町の御本社の末社、「キタのお稻荷さん」こと、喜多埜稻荷神社が今年で復興五十年となるのを記念し、社殿前の参道を石畳に敷き替え改修いたしました。また昨今の情勢を鑑み、バリアフリー化し、参拝しやすい形に改めております。石そのものは旧御旅社のもので、今では貴重な手彫りの国産御影石です。ぜひご参拝時にはご注目下さい。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編者 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

